

第1章 計画の背景と目的

1 計画策定の背景と目的

■計画策定の背景

単なる既存図書室の改修にとどまらず、本市の「知の拠点」を再編し、市民の日常に新たな価値をもたらすとともに、将来の持続可能なまちづくりへと直結する実効性の高い基本計画の策定が求められています。

■計画の目的

本計画は、既存施設である「青年の家」1階部分を活用した「(仮称) 青年の家図書館」の整備に向けて、基本理念や施設機能、空間構成、事業費等を総合的に整理し、実現性の高い基本計画を策定することを目的とします。

2 上位計画及び関連計画との整合

以下の上位・関連計画を整理し、新図書館に求められる役割や位置づけを把握します。

- ・第5次総合計画
- ・公共施設等総合管理計画
- ・公共施設等再配置計画
- ・教育大綱
- ・生涯の学び指針（2027年～）
- ・学校教育ビジョン
- ・図書館整備構想
- ・図書館運営方針
- ・子ども読書活動推進計画

3 社会情勢の変化と図書館を取り巻く全国的な動向

近年の図書館整備では、資料・情報提供を基盤としながら、次のような方向性も重視されています。

- ・「貸出の場」から、滞在し、学び、活動できる場へ
- ・複合化から「機能融合」へ
- ・誰も取り残さない利用環境の整備
- ・DX・ICTによる「省力化」と「サービスの質向上」の両立
- ・建物単体ではなく、地域全体を図書館サービス網として捉える視点

4 先進事例の整理

既存公共施設の改修・複合化、滞在型サービス、DX・ICT、他機能との融合等の観点から、本事業との類似性が高い事例を対象に調査します。

- ・泉大津市：SHEEPLA（シープラ）泉大津市立図書館
- ・寝屋川市：寝屋川市立こども図書館（こども図書館+plus）
- ・寝屋川市：寝屋川市立中央図書館
- ・枚方市：枚方市立生涯学習交流センター・枚方市立市駅前図書館
- ・葛城市：(仮称) 當麻複合施設 niconowa

第2章 交野市の図書館等の現状と課題

1 交野市の地域特性と図書館の現状

■交野市の地域特性

本市における新たな公共施設（新図書館）の整備方針を検討するにあたり、前提となる交野市の立地、人口、都市環境等の基礎的な地域特性を整理します。

■交野市の図書館の現状

交野市の図書館サービスは、倉治図書館、青年の家図書室、星田会館図書室、第1児童センターこども図書室の4施設に、自動車文庫、学校及びこども園への団体貸出、オンラインサービス等を組み合わせた「地域密着型・分散型」のサービス網を形成している点に大きな特徴があります。

- ・図書館・室と自動車文庫による身近なサービス網
- ・利用状況と、貸出を基盤とした多様な利用
- ・学校・子ども・地域へのアウトリーチ
- ・「利用者との心理的距離の近さ」という交野らしさ

2 市民ニーズの把握と分析

アンケート調査及びワークショップに基づく潜在ニーズを抽出します。

- ・利用実態と世代別のニーズ（アンケート結果より）
- ・「関係性」と「居心地」への期待（ワークショップ結果より）
- ・新図書館整備への期待

3 現図書館（図書室）における課題の整理

職員へのヒアリングをふまえ、現状の課題とあわせて、新図書館における計画条件として整理します。

- ・誰もが使いやすい空間への改善 — 職員が最も強く望む基礎条件
- ・静けさとにぎわいを選べるゾーニング
- ・広くなるからこそ必要となる「見守れる空間」と安全管理
- ・バックヤード・物流・職場環境をサービス品質の基盤として整える
- ・施設拡大とサービス拡充に見合う人員・運営体制
- ・ICTは「人が人に向き合う時間を増やすため」に
- ・「交野らしさ」を継承しながら、新しいサービスを育てる

4 青年の家の現況と制約条件

青年の家の現況を把握し、法令、構造、空間、設備の各側面から、制約条件を整理します。

- ・施設概要の整理
- ・法的制約条件の整理
- ・構造的制約と空間的課題の整理
- ・設備インフラの適合性と改修課題の整理

第3章 新図書館の基本理念と基本方針

1 基本理念

本と人、知と活動をつなぎ、
交野の日常を豊かにする図書館（仮）

新図書館は、本・情報を確実に届ける図書館本来の役割を土台としながら、読む、調べる、学ぶ、くつろぐ、出会う、活動するという多様な行為を受け止めます。図書館が知識を一方向的に提供するだけでなく、市民の関心や問いが資料・情報と結びつき、学びが活動へ、活動が新たな問いや学びへ循環する場をめざします。

2 新図書館の基本方針

- ① 本・情報へのアクセスを、すべてのサービスの土台にする
- ② 静かに過ごすことも、学び合い活動することも選べる居場所をつくる
- ③ 図書館と生涯学習等を「並べる」のではなく、知と活動が循環するよう融合する
- ④ 誰もが使いやすく、支援を必要とする人に届く図書館にする
- ⑤ ICTで便利にしながら、人と人との関係を大切にする
- ⑥ 職員と市民が、開館後も育て続けられる図書館にする

3 市内図書館ネットワークと機能分担

- ・市内全域をつなぐ図書館ネットワークの構築
- ・倉治図書館との機能・役割分担の明確化
- ・各図書室・自動車文庫の身近さを生かしたサービスの充実
- ・将来の全館的な管理運営方針への展開

第4章 導入機能とサービス計画

1 生涯学習機能との融合

- ・講座・活動と図書館資料の連携
- ・学びの成果を次の市民へつなぐ仕組みの構築
- ・地域課題を知り、考え、行動する機会の創出
- ・連携による図書館運営の推進

2 誰もが心地よく過ごせるサービス展開

誰もが自分に合った過ごし方を選べる図書館をめざし、バリアフリー化、閲覧・自習席、児童スペース、多様な利用者へのサービスを充実します。

3 DX・ICT環境の整備と拡張

- ・館内利用環境
- ・貸出・返却・資料管理
- ・オンラインサービス
- ・デジタル利用の選択肢の保障
- ・職員業務支援

第5章 施設計画

1 施設規模と必要諸室の設定

将来的な人口動態や市民ニーズを見据え、新図書館に求められる目標蔵書数や閲覧席数を設定します。あわせて、開架スペース、児童スペース、学習・滞在スペース、多目的スペースなど、各機能に必要な面積規模を算定し、限られた空間を最大限に活用する施設計画を策定します。

2 ゾーニングと動線計画

- ・既存のRC構造壁を活かした多様な滞在空間創出
- ・誰もが気兼ねなく利用できるユニバーサルな動線計画

3 複合化を促す空間構成

図書館と生涯学習・市民活動がつながる、開放的で回遊性の高い空間を整備します。

4 屋外空間の活用

読書やイベントなど、屋内と屋外が連続し、自然を感じられる空間として青年の家の敷地全体の活用を検討します。

5 働きやすいバックヤード環境の構築

資料搬出入や物流、職員の休憩などを支える、効率的で働きやすいバックヤードを整備します。

第6章 管理運営方針

新図書館の管理運営を、開館後もサービスを育て続ける仕組みとして捉え、人員体制や安全管理等を踏まえた施設・運営方針を一体的に整理します。

- ・運営の基本原則
- ・人員体制と役割分担
- ・複合施設としての運営分担
- ・安全・防犯・見守り
- ・職員参加型の開館準備と人材育成
- ・評価と改善
- ・工事期間・移転・開館準備期のサービス継続

第7章 事業実施に向けた計画

新図書館の実現に向け、事業費・スケジュール・今後の課題を整理し、設計・改修から開館後の運営までを見据えた事業化の道筋を示します。

- ・概算事業費の算定
- ・事業スケジュール（ロードマップ）
- ・事業化に向けた今後の課題